

北陸農政局事前評価技術検討会（第2回） 議事概要

- 1 日 時：令和8年7月3日（金）13:30～15:15
- 2 場 所：石川県教育会館 第1会議室
- 3 対象地区：氷見地区
- 4 委 員：上澤 聖子 一般社団法人 朝日町観光協会 （※）
瀧本 裕士 石川県立大学
根岸 睦人 新潟大学 （WEB）
浜野 剛 北國新聞社 （※）
松本 恵子 甲武信ユネスコエコパーク推進協議会 （WEB）

（五十音順）

※当日欠席のため、会議後に議事録等を送付した上で意見聴取を実施。

5 議 事：

北陸農政局事前評価技術検討会（第2回）を開催し、令和9年度事業着手予定地区である国営かんがい排水事業「氷見」地区について、第1回技術検討会における指摘への回答及び補足説明を行った。また、技術検討会としての意見について、取りまとめを行った。

（農政局）第1回の技術検討会において、各委員の皆様方からご質問等をいただき、その場で事務局から回答した内容を整理させていただいた。なお、当日の回答で分かりづらい説明があったと危惧しており、「第2回技術検討会における回答」に改めて整理させていただいた。これについては、事前に質問をいただいた委員に内容を確認いただき、ご理解いただいたので、この場での説明は省略させていただく。

6 技術検討会の意見

本地区では、昭和52年度から平成4年度にかけて国営氷見土地改良事業により排水機場等の農業水利施設を造成したことにより、湛水被害の解消や用水の安定供給が図られ、水稻を中心に、水田畑利用による大麦・ハトムギのほか、マコモタケ及びぶどうを組み合わせた農業経営が展開されている。

しかし、十二町瀉排水機場は造成後40年以上経過し、施設の老朽化が進行し、翼角制御装置の不具合に伴うポンプの緊急停止など、排水機能の維持に支障を来しているとともに、施設の維持管理に多大な費用と労力を要している。

また、近年の降雨量の変化による流出形態の変動に対し、排水能力が不足し、湛水被害が生じている。

さらに、必要な耐震性を有していないことから、大規模地震が発生し施設が損壊した場合には、地域に甚大な被害を及ぼすおそれがある。

このため、本事業では、十二町瀉排水機場の老朽化対策及び排水機能の保全と耐震化のための整備を一体的に行うことにより、施設の長寿命化、維持管理の費用と労力及び湛水被害の軽減を図り、農業生産性の維持及び農業経営の安定に資するものであり、その必要性・緊急性は明らかである。

事業の実施に際して、排水機能を維持しながら施設改修が必要であることから、適切な工程計画を策定したうえで円滑に工事を進められたい。また、事業開始後も継続的にコスト縮減や生物多様性・景観等の保全に努めるとともに、事業完了後の施設の適切な維持管理を図られたい。

以上